

授業科目名・形態	助産学実習Ⅱ 実習	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	工藤 優子・岩間 薫・関口 麗子	実務経験の有無	㊦・無	開講期	4年前期・後期

### 【授業の主題】

病院の産科外来において助産師の活動を学び、受け持ち継続事例の健康診査と妊娠期の助産過程を展開し、保健指導を実施する。また、マタニティクラスを運営し、そのあり方を学ぶ。助産師の業務には、助産所という経営体の管理運営責任者としての業務がある。助産所の管理・運営の基本的知識をふまえて、実習を通して助産所の特徴を理解し、業務・管理・運営業務、医療連携を学び、併せて助産の望ましいあり方を考える。

### 【到達目標】

- 継続事例の妊娠期の助産過程を展開できる
  - 産婦・胎児の健康診査・経過診断・健康生活診断と指導者の助言のもとに保健指導ができる。
  - 妊娠期の健康教育のあり方を学ぶことができる。
  - 正常な経過からの逸脱を予測し、予防することと緊急時の対応について理解できる。
- マタニティクラスの見学と運営から、そのあり方を学ぶことができる。
- 助産所の特色、業務・管理・運営業務、医療連携を学ぶことができる。
- 専門職としての役割・責務を認識した行動を学ぶことができる。
  - 対象を尊重した態度を学び、ケアが提供できる
  - 母児の生命の尊重、助産の倫理について考えることができる。
  - 助産業務が理解できる。

### 【授業計画・内容】

- 継続事例として、初産婦1例を妊娠中期から母児の産褥1ヶ月健診まで受け持つ。
- 事前に保健指導の指導案を作成し、保健指導内容を実習指導者および指導教員の確認を受けておく。
- 妊娠初期・中期の各1名、その他の妊婦8名の妊婦健康診査、保健指導案作成と保健指導を実施する。
- マタニティクラスの見学と運営を行う。
- 助産所実習を通して、助産所の特徴の理解と業務・管理・運営業務、医療連携を学ぶ。  
\*その他の計画の詳細は、別途実習要項を参照のこと。

### 【授業実施方法】 臨地実習

### 【授業準備】

事前にこれまでの学習内容、および教科書・資料・参考文献を復習し、さらに保健指導集を充実させておくこと。

### 【主な関連する科目】

助産学概論、基礎助産学、助産診断・技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、助産管理論、公衆衛生看護技術論

### 【教科書等】

助産学講座1 助産学概論～助産学講座8 医学書院、各授業で配布した資料など。作成した保健指導集。

### 【参考文献】

日本助産診断・実践研究会：実践 マタニティ診断第4版 医学書院  
 北川真理子、内山和美編：今日の助産改訂第3版 南江堂  
 武谷雄二他監修：プリンシプル産婦人科学2 産科編 第3版 MEDICAL VIEW  
 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン 産科編2017 日本産婦人科学会

### 【成績評価方法】

事前学習10%、実習評価40%、実習記録（レポートを含む）40%、実習への取り組み姿勢等10%とし総合的に評価する。

### 【実務経験及び実務を活かした授業内容】

特定機能病院において助産師として勤務しハイリスクの妊産褥婦、新生児のケアを行ってきた。臨床での根拠のある看護実践の大切さを伝えたいと思う。

### 【学生へのメッセージ】

継続事例さんやマタニティクラスで出会う妊婦さんの大切な妊娠期にかかわります。自分たちで作成した保健指導集の出番です。助産学実習Ⅰと重なり、さらに内容も多彩ですが、一回の機会を大切に、互いに協力し合いながら有意義な実習にしましょう。